

澤野 孝一郎（さわの こういちろう）

研究分野解説（2019 年 4 月現在）

研究分野は、応用ミクロ経済学、医療経済学です。主に医療・公共・航空のサービスを分析対象にしています。

最近は特に世界でも稀に見る急速な少子・高齢化に直面している日本の人口動態リスクが社会に与える影響について研究しています。

2012 年度には、科研費・基盤研究(C)「子ども医療と公立病院の役割、地方自治体の政策とその評価に関する経済学研究」を行っています。

雑誌『健康保険』（健康保険組合連合会）に、「少子・高齢化の進展と高齢者医療費の負担、産業空洞化について」（2015 年）と「国民負担率と国民生活」（2017 年）の 2 つの論文を公表しています。2018 年 2 月、本研究について講演依頼があり、4 月に講演しています。

名古屋工業大学では協力研究員（高度防災工学センター）と非常勤講師、名古屋市立中央看護専門学校では非常勤講師になっています。

大学院では、大学院生と一緒に研究を進めています。以下では、澤野研究室に所属する大学院生の研究を紹介します。留学生の受け入れ実績は、1 名（博士前期課程）です。

博士後期課程（カッコ内は、博士（経済学）の取得年）

「公共工事入札制度と政府調達コストに関する研究」（在籍中）

「東海地方 4 県の地域医療情報ネットと厚生労働省 DPC 病院データを連結した脳梗塞在院日数に影響を与える病院組織の要因分析:医療連携を強化するインセンティブの解明を目指して」（2017 年）

博士前期課程（カッコ内は、修士（経済学）の取得年）

「中国経済の現状と日本企業の対中直接投資－愛知県内企業を分析対象として」（2019 年）

「公共工事入札における落札率の研究－入札者数と経過月数の影響－」（2016 年）

「全国保険者別データによる介護保険制度の実証分析」（2016 年）

「空港における騒音の社会的費用の計測－名古屋空港を例にして－」（2015 年）

「チーム医療のインセンティブ設計」（2014 年）

「自治体病院と一部事務組合病院について－公立陶生病院の事例研究－」（2014 年）

「自治体病院における内部組織の問題と事務員の役割について」（2014 年）

「地方自治体におけるプロジェクト費用便益分析の一考察」（2012 年）

博士前期課程（医療経済マネジメントコース、カッコ内は、修士（経済学）の取得年）

「中堅看護師が働き続ける為に必要なこと－「中堅看護職員研修会」調査結果のクロス集計より－」（在籍中）

以上